

ディスコグラフィー掲載

ディスコグラフィー【2018No.104】(HP 掲載)

分類：CD

作曲家：J.S.Bach

曲名：マタイ受難曲

演奏：ルードルフ・マウエルベルガー指揮ライブツィヒゲヴァントハウス管弦楽団

発売：DENON

No.：COCO-84904-6

概要：



ネット上に掲載された解説は次のとおりです。

「オイロディスク声楽名盤選 宗教曲コレクション／バッハ：『マタイ受難曲』

マウエルスベルガー&ゲヴァントハウス管弦楽団、シュライアー他

荘厳な美しさに満ちた冒頭から引き込まれる『マタイ受難曲』は、バッハがトーマス教会の音楽監督だったときに書かれたもので、バッハの宗教音楽を代表する傑作としても知られています。キリストの受難の物語を音楽で表現した大規模なこの作品については、バッハ・ファンにとっての聖地であるライブツィヒのトーマス教会での演奏はじめ、これまでに世界各地で数多くの演奏・録音がおこなわれてきました。

その聖地、ライブツィヒのトーマス教会の合唱団と、ドレスデンの聖十字架教会合唱団というドイツのふたつの聖歌隊が、ルドルフ・マウエルスベルガーの指揮のもと、伝統の重さと奥深さを示したのがこのアルバムです。

当時それぞれのコーラスの音楽監督の地位にあったのが、合唱指揮者のマウエルスベルガー兄弟であり、ドレスデンの兄ルドルフ（この録音の翌年に他界）、ライブツィヒの弟エルハルトにとっては、その音楽生活の総決算的な意味合いを持つ録音でもありました。

もとはドレスデン聖十字架教会合唱団の一員としてルドルフの薫陶を受けてきたという名テノール、ペーター・シュライヤーの若き日の美声が素晴らしいエヴァンゲリスト（福音史家）も聴きものです。（HMV）」

【収録情報】

・J.S.バッハ：マタイ受難曲 BWV.244

ペーター・シュライヤー（テノール：福音史家）

テオ・アダム（バス：イエス）

ジークフリート・フォーゲル（バス：ペテロ）

ヨハネス・キュンツェル（バス）

ヘルマン・クリスティアン・ポルスター（バス）

ハンス・マルティン（バス）

ハンス＝ヨアヒム・ロッチュ（テノール）

アデーレ・シュトルテ（ソプラノ）

アンネリース・ブルマイスター（アルト）

ギュンター・ライプ（バス）

ライプツィヒ聖トーマス教会合唱団（合唱指導：エルハルト・マウエルスベルガー）

ドレスデン聖十字架教会合唱団（合唱指導：ルドルフ・マウエルスベルガー）

ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団

ルドルフ・マウエルスベルガー（指揮）

録音時期：1970年

録音場所：ドレスデン、ルカ教会

録音方式：ステレオ（セッション）

歌詞対訳付き

このCDは、教会録音で、ソリストは、ペーター・シュライヤー他一流のメンバー、合唱団は教会専属の合唱団、オーケストラは手慣れたゲヴァントハウス管弦楽団という豪華なメンバーで、演奏はオーソドックスで滋味ながら味わい深いもので、ドームにこだまする教会録音の雰囲気が出ています。

他の演奏で比べられるものは、唯一、[放送ストーリーミング情報【2015No.29】](#)で奉告した、2013年10月19日、ベルリンフィル大ホールでの演奏です。



「マタイ受難曲」は鈴木雅明と BCJ (バッハ・コレギウム・ジャパン) の「メンデルスゾーン版」の演奏を演奏会形式で聴いています。ベルリンフィルでは、大ホールの間を活かして、ステージや客席側の通路なども使い、歌手が移動したり演技をしたりする楽劇のような形式でドラマティックに演奏されました。

以上